

令和6年度 データサイエンス応用基礎プログラム自己点検・評価報告

令和7年7月

立正大学データサイエンス学部カリキュラム委員会

学内からの視点			
評価項目	評価基準	点検結果	評価結果（課題）
1.プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムに対応する科目はデータサイエンス学部の必修科目となっているため、プログラムの履修・修得状況については、対応する科目の単位修得状況を確認することによって把握する。	必修科目として実施しているため、すべての1年生と再履修学生が本プログラムの対象となっている科目を履修した。令和6年度に本プログラムの単位未習得であった学生については、新年度のガイダンスで履修指導を実施し、再履修のための履修登録を実施した。	データサイエンス学部のすべての入学生が履修する仕組みを構築している。単位未習得であった学生の再履修についても履修指導にて対応している。
2.学修成果	本教育プログラムに対応する科目はデータサイエンス学部の必修科目となっているため、学修成果は単位の修得状況や成績分布などを確認することによって把握できる。確認した結果を本教育プログラムの評価・改善に活用する。	本プログラムに取り組んだ学生の多くが単位を修得していることから、一定の学修成果を得られていることが確認できた。	学修成果を確認する体制の整備が十分に行われている。
3.学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	総合経営企画課において実施している「授業改善アンケート」の対応項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握し、本教育プログラムの評価・改善に活用する。	「授業改善アンケート」の実施結果をもとに、カリキュラム委員会で学生の理解度を検証し、今後のプログラムの改善・整備に役立てている。	授業内容の見直しにより理解度の向上に向けた取り組みを進めている。
4.学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	本教育プログラムに対応する科目はデータサイエンス学部の必修科目となっているため、すべての本学部入学生が履修することになる。単位修得状況や「授業改善アンケート」の対応項目の分析を通して、本学部学生に必要な知識・技能の修得をサポートする。	必修科目として実施しているため、すべての1年生が本プログラムの対象科目を履修した。「授業改善アンケート」の結果は授業担当教員が把握するとともに、カリキュラム委員会においても確認している。	授業内容の見直しにより理解度の向上に向けた取り組みを進めている。
5.全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムに対応する科目はデータサイエンス学部の必修科目となっているため、すべての本学部入学生が履修する。	必修科目として実施しているため、すべての1年生が本プログラムの対象となっている科目を履修した。今後も必修科目を中心にプログラムを構成し高い履修率を維持する。	授業内容の見直しにより理解度の向上に向けた取り組みを進めている。
学外からの視点			
評価項目	評価基準	点検結果	評価結果（課題）
6.教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムはデータサイエンス学部設置とともに、令和3年度に新入生を対象として開始されたため、修了者は令和6年度に卒業を迎える。卒業生の進路、活躍状況、企業等の評価については、本学部において必要な情報を把握するとともに、卒業生や企業への聞き取りなどを通して把握する予定である。	令和6年度卒業生の進路は就職（97%）、大学院進学（3%）となった。就職先の業種の内訳は、サービス（30%）、情報通信（29%）、メーカー（7%）、公務員（6%）、商社（6%）となり、数理・データサイエンス・AIの知識を広く活用できる業種が上位を占めた。卒業生の進路については、本学部HPにて公開している。	教育プログラム修了者の就職先・進路先の情報を適切に収集・集計・公開する体制が構築できていることを確認している。
7.産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学部において2年次の専門科目として開講している「インターンシップ」の受け入れ先の企業や団体からフィードバックを受けることにより、産業界等からの視点や本教育プログラムや学部のカリキュラムに反映させていきたい。同様に、4年次に実施している卒業研究・卒業論文の報告会に本学部と親交のある企業や団体を招き、学外の産業界からのフィードバックを受ける予定である。	本学部で開講された「インターンシップ」の受け入れ先の企業や団体からおおむね受け入れ学生について好評を得ている。また、卒業研究・卒業論文報告会においても、産業界から複数の参加があり、おおむね好評を得た。	産業界からの視点を含め状況を把握する体制を構築していることを確認している。
8.数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	実社会のどのような場面にデータサイエンスやAIが活用されているのか、本教育プログラムの対象となっている科目において、事例の紹介を通じ学生の興味関心を高め、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を学生が早い段階から理解できるよう配慮する。	「授業改善アンケート」の実施結果や授業時に学生から集めるコメントなどを参考に、授業担当者が改善に取り組んでいる。	実データを用いた授業展開など学生の興味関心を高める工夫がみられる。引き続き授業担当教員の主体的な取り組みを支援する。
9.内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とすること	本教育プログラムに対応する科目はデータサイエンス学部の必修科目となっているため、すべての本学部入学生が履修することになる。単位修得状況や「授業改善アンケート」の対応項目の分析を通して、本学部学生に必要な知識・技能の修得をサポートする。また、「自己点検・評価」の結果を授業担当教員とも共有し、授業改善に役立てることができる体制を整えている。	「授業改善アンケート」の実施結果をもとに、カリキュラム委員会で学生の理解度を検証し、今後のプログラムの改善・整備に役立てている。カリキュラム委員会と授業担当教員との情報共有によって授業内容を見直し適切な水準を維持しながら改善を進めている。	カリキュラム委員会と授業担当教員との情報共有を進める体制が確保されている。